

平成 28 年度「施設在宅領域における看護師の現任教育の現状
(クリニカルラダー活用の実態と課題)」結果報告

平成 29 年 2 月 14 日

公益社団法人愛知県看護協会 看護師職能委員会 II

I 調査目的

介護・福祉施設、在宅領域で勤務する看護職（看護師・准看護師）の現任教育の現状とクリニカルラダーの活用状況とその課題を明らかにすることを目的に愛知県内の介護老人福祉施設（以下、特養）、介護老人保健施設（以下、老健）、訪問看護ステーション（以下、訪看）を対象に質問紙による調査を行った。

II 調査方法

平成 28 年 8 月に愛知県内の会員施設である特養 7 箇所、老健 34 箇所、訪看 91 箇所に調査依頼文と質問紙を郵送した。また、平成 28 年度高齢者ケア施設管理者交流会において非会員施設の参加者 11 名に配布した。調査用紙の回収はすべて郵送で行った。

調査内容は 1 施設の概要、2 看護職の採用状況、3 現任教育の現状、4 クリニカルラダーの現状、5 日本看護協会のクリニカルラダー、6 現任教育及びクリニカルラダーの活用に関する課題（自由記載）である。

III 倫理的配慮

調査は無記名であり、得られたデータは施設を特定できないよう処理し、プライバシー保護・守秘義務を徹底した。回答のあった施設が調査に同意したものとした。

IV 結果及び考察

調査票の回収数（回収率）は高齢者施設（特養＋老健）27 枚（65.9%）、訪看 52 枚（57.1%）、全体では 79 枚（55.2%）であった。

以下に現任教育の現状と課題、クリニカルラダーの現状、日本看護協会のクリニカルラダーについて、クリニカルラダーの活用について順に述べる。

1) 現任教育の現状と課題

(1) 現任教育の体制について

表 1 現任教育を企画担当する看護師の責任者の有無

	全体		高齢者施設		訪看	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
いる	48	60.8%	14	51.9%	34	65.4%
いない	28	35.4%	12	44.4%	16	30.8%
無回答	3	3.8%	1	3.7%	2	3.8%
合計	79	100.0%	27	100.0%	52	100.0%

現任教育を企画担当する看護師の責任者が「いる」と回答したのは、高齢者施設の 51.9%、訪看の 65.4%と半数以上であった。現任教育の責任者が看護管理者と重複しているかは調査していないため不明である。

表2 現任教育を企画担当する組織的な委員会の有無

	全体		高齢者施設		訪看	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
ある	34	43.0%	12	44.4%	22	42.3%
ない	43	54.4%	14	51.9%	29	55.8%
無回答	2	2.5%	1	3.7%	1	1.9%
合計	79	100.0%	27	100.0%	52	100.0%

現任教育を企画担当する組織的な委員会が「ある」と回答したのは、高齢者施設の44.4%、訪看の42.3%であり、どちらも現任教育を企画担当する看護師の責任者が「いる」の回答に比べ低い割合であった。これは常勤看護師の人数が施設では平均7名、訪看では平均4名と病院に比べ圧倒的に少なく委員会を組織するほどの規模の施設は少ないためと考えられる。

表3 教育研修の年間計画を立案の有無

	全体		高齢者施設		訪看	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
立案している	53	67.1%	16	59.3%	37	71.2%
立案していない	23	29.1%	9	33.3%	14	26.9%
無回答	3	3.8%	2	7.4%	1	1.9%
合計	79	100.0%	27	100.0%	52	100.0%

教育研修の年間計画を「立案している」と回答したのは、高齢者施設の59.3%、訪看の71.2%であり、現任教育を企画担当する看護師の責任者が「いる」、現任教育を企画担当する組織的な委員会が「ある」の回答に比べ高い割合であった。責任者がいなくても、組織的な委員会がなくても年間計画を立案していることから、管理者自らが立案しているのではないかと考えられる。

(2) 27年度に実施した研修（複数回答）

表4 高齢者施設が実施した研修（複数回答）

	施設内		施設外	
	回答数	構成比	回答数	構成比
新規採用者対象研修・オリエンテーション等	23	85.2%	1	3.7%
経年別研修	7	25.9%	5	18.5%
看護管理者を対象とした研修	4	14.8%	8	29.6%
看護専門知識技術に関する研修	15	55.6%	21	77.8%
医療安全、感染防止、臨床倫理、接遇等必要性の高い課題の教育研修	24	88.9%	19	70.4%
その他	3	11.1%	2	7.4%
無回答	0	0.0%	2	7.4%

高齢者施設の施設内で実施した研修内容について無回答は0、施設外研修について無回答は2であり、熱心に現任教育に取り組んでいる現状が示唆される。施設内研修の内容を見ると、「必要性の高い課題研修」、「新規採用者対象研修・オリエンテーション等」は80%以上の施設で実施

しているが、「看護管理者を対象とした研修」、「経年別研修」を実施している施設は少なかった。また「看護管理者を対象とした研修」、「看護専門知識技術に関する研修」は施設内研修に比較すると施設外研修を利用している施設の割合が多いことがわかる。これは自施設の現任教育の課題で挙げている「教育研修を企画運営する人材がいない」「講師を担う人材がいない」ことや施設全体の職員のうち看護師の占める割合が少ないことが影響していると考えられる。

表5 訪看が実施した研修

	施設内		施設外	
	回答数	構成比	回答数	構成比
新規採用者対象研修・オリエンテーション等	38	73.1%	15	28.8%
経年別研修	23	44.2%	20	38.5%
看護管理者を対象とした研修	18	34.6%	26	50.0%
看護専門知識技術に関する研修	38	73.1%	48	92.3%
医療安全、感染防止、臨床倫理、接遇等必要性の高い課題の教育研修	21	40.4%	32	61.5%
その他	2	3.8%	3	5.8%
無回答	6	11.5%	2	3.8%

訪看の施設内で実施した研修について無回答は6、施設外研修について無回答は2であり、ほとんどの訪看でも熱心に現任教育に取り組んでいた。施設内研修の内容を見ると、全ての研修を30%以上の訪看で実施しており、中でも「新規採用者対象研修・オリエンテーション等」、「看護専門知識技術に関する研修」は70%以上の訪看で実施している。また高齢者施設と比較すると「看護管理者を対象とした研修」、「経年別研修」、「看護専門知識技術に関する研修」の実施割合が多い。これは高齢者施設では看護職より介護職が多いが、訪看では大多数が看護職であることによるものと考えられる。施設内研修に比べ施設外研修の割合が多いものは、「看護管理者を対象とした研修」、「看護専門知識技術に関する研修」、「必要性の高い課題の教育研修」であった。

表6 活用した施設外研修の主催（複数回答）

	全体 N=79		高齢者施設 N=27		訪看 N=52	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
日本看護協会、愛知県看護協会	58	73.4%	17	63.0%	41	78.8%
看護協会以外の職能団体（医師会等）やその他医療系組織	53	67.1%	17	63.0%	36	69.2%
県や市など公的機関	42	53.2%	10	37.0%	32	61.5%
企業・製薬会社等	37	46.8%	5	18.5%	32	61.5%
民間の研修機関等	34	43.0%	9	33.3%	25	48.1%
その他	5	6.3%	3	11.1%	2	3.8%
無回答	5	6.3%	2	7.4%	3	5.8%

(3) 自施設の現任教育の課題（複数回答）

表7 自施設の現任教育の課題（複数回答）

	全体 N=79		高齢者施設 N=27		訪看 N=52	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
教育研修の企画運営を担う人材がいない	31	39.2%	12	44.4%	19	36.5%
講師を担う人材がいない	25	31.6%	14	51.9%	11	21.2%
教育研修の予算がない	8	10.1%	2	7.4%	6	11.5%
教育研修に関する幹部の理解が乏しい	2	2.5%	1	3.7%	1	1.9%
教育研修を行う場所がない	3	3.8%	0	0.0%	3	5.8%
教育研修を行う時間がない	36	45.6%	15	55.6%	21	40.4%
教育研修を開催しても参加者が少ない	19	24.1%	11	40.7%	8	15.4%
その他	3	3.8%	3	11.1%	0	0.0%
無回答	21	26.6%	3	11.1%	18	34.6%

高齢者施設では「教育研修を行う時間がない」、「講師を担う人材がいない」が50%以上であり、「教育研修の企画運営を担う人材がいない」、「教育研修を開催しても参加者が少ない」も40%以上である。訪看では「教育研修を行う時間がない」、「教育研修の企画運営を担う人材がいない」が約40%である。高齢者施設・訪看のどちらも「教育研修を行う時間がない」の割合が多い。高齢者施設の自由記載の内容を見ると、学習意欲の不足と指導者の不足が挙げられている。また訪看では、看護師の経験や知識などのレベルが様々であるための困難や、業務調整の困難による研修参加が難しいことが挙げられている。

2) クリニカルラダーの現状

「クリニカルラダーあり」は高齢者施設 14.8%、訪看 36.5%である。しかし訪看の80%以上は「十分運用できていない」と回答している。クリニカルラダーの対象を高齢者施設では、「常勤看護師」と「全ての看護職」としているところが半々であるが、訪看では、「常勤看護師と非常勤看護師」が84.2%と大半を占めている。訪看では准看護師を採用しているところは少ないためであると考え。「クリニカルラダーなし」の施設の約40%が「必要性は感じているが作成する予定はない」と回答し、約30%は「必要かどうかわからない」と回答している。

表8 自施設のクリニカルラダーの有無

	全体		高齢者施設		訪看	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
ある	23	29.1%	4	14.8%	19	36.5%
ない	55	69.6%	23	85.2%	32	61.5%
無回答	1	1.3%	0	0.0%	1	1.9%
合計	79	100.0%	27	100.0%	52	100.0%

表9 「クリニカルラダーあり」施設の運用の実際

	全体		高齢者施設		訪看	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
運用している	6	26.1%	3	75.0%	3	15.8%
十分運用できていない	17	73.9%	1	25.0%	16	84.2%
全く運用していない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	23	100.0%	4	100.0%	19	100.0%

表10 「クリニカルラダーあり」施設の対象者

	全体		高齢者施設		訪看	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
常勤看護師に適応している	3	13.0%	2	50.0%	1	5.3%
常勤看護師と常勤准看護師に適応している	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
常勤看護師と非常勤看護師に適応している	16	69.6%	0	0.0%	16	84.2%
常勤看護師・准看護師、非常勤看護師・准看護師に適応している	3	13.0%	2	50.0%	1	5.3%
その他	1	4.3%	0	0.0%	1	5.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	23	100.0%	4	100.0%	19	100.0%

表11 「クリニカルラダーなし」施設のクリニカルラダーに対する考え

	全体		高齢者施設		訪看	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
クリニカルラダーの作成を検討中である	7	12.7%	3	13.0%	4	12.5%
クリニカルラダーの必要性は感じているが作成する予定はない	23	41.8%	9	39.1%	12	37.5%
クリニカルラダーの必要性がない	4	7.3%	0	0.0%	4	12.5%
クリニカルラダーの必要かどうかわからない	16	29.1%	7	30.4%	9	28.1%
その他	5	9.1%	3	13.0%	2	6.3%
無回答	2	3.6%	1	4.3%	1	3.1%
合計	55	100.0%	23	100.0%	32	100.0%

3) 看護協会のクリニカルラダーについて

「ジェネラリストのための標準クリニカルラダー」、「標準化された看護師のクリニカルラダー」のどちらも約半数の施設は知らないと回答しているが、60%以上が「何らかの形で参考にしたい」と回答している。一方、「クリニカルラダーの必要性を感じない」と高齢者施設の14.8%、訪看の11.5%が回答している。「クリニカルラダー運用の課題」の自由記載を見ると「活用がわからない」、「評価が難しい」、「仕組みがわかっていない」などの意見が挙げられた。

表 1 2 「ジェネラリストのための標準クリニカルラダー」(平成 14 年度)について

	全体		高齢者施設		訪看	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
知っている	29	36.7%	12	44.4%	17	32.7%
知らない	45	57.0%	14	51.9%	31	59.6%
無回答	5	6.3%	1	3.7%	4	7.7%
合計	79	100.0%	27	100.0%	52	100.0%

表 1 3 「標準化された看護師のクリニカルラダー」(平成 27 年度)について

	全体		高齢者施設		訪看	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
知っている	31	39.2%	14	51.9%	17	32.7%
知らない	42	53.2%	12	44.4%	30	57.7%
無回答	6	7.6%	1	3.7%	5	9.6%
合計	79	100.0%	27	100.0%	52	100.0%

表 1 4 「標準化された看護師のクリニカルラダー」の活用について

	全体		高齢者施設		訪看	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
ぜひ活用したい	10	12.7%	1	3.7%	9	17.3%
何らかの形で参考にしたい	51	64.6%	19	70.4%	32	61.5%
自施設のものがあるので活用することは考えていない	2	2.5%	2	7.4%	0	0.0%
特にクリニカルラダーの必要性を感じない	10	12.7%	4	14.8%	6	11.5%
その他	3	3.8%	1	3.7%	2	3.8%
無回答	3	3.8%	0	0.0%	3	5.8%
合計	79	100.0%	27	100.0%	52	100.0%

V まとめ

今回の調査で高齢者施設の約 6 割、訪看の約 7 割が教育研修の年間計画を立案していることが明らかとなった。看護職の人数が少ない小規模施設が多い中、半数以上の施設が委員会を持たず、管理者自らが研修計画を立案し、現任教育に取り組んでいる現状が伺えた。また看護職の人数が少ないことは研修時間の確保や、研修企画を担う人材の不足、講師を担う人材の不足にも影響していると考えられた。

研修の内容では新規採用者研修と医療安全等の必要性の高い研修は実施されていたが、看護管理者を対象とした研修や経年別研修を行っている施設は半数以下であった。

これらのことから施設在宅領域では看護管理者を対象に人材育成に関する研修ニーズがあると考えられる。施設在宅領域に働く看護職が看護にやりがいを感じ、仕事を継続するためには、仕事を

通じて自己実現ができることが重要である。利用者との関りの中で自分自身の将来像を描けるような人材を育成することが管理者に求められる。このような人材が定着することは、施設の看護力の向上であり経営戦略といえる。

さらに看護実践能力の向上のためにはクリニカルラダーの周知と活用が必要であると考えますが、今回の調査でクリニカルラダーの必要性がない、あるいはわからないと回答した施設が約 3 割あった。施設における教育の現状は経験知に基づく育成ではないかと推測されるが、クリニカルラダーを教育のツールとして活用することにより今までの看護実践を振り返り、経験の意味づけができるのではないかと考える。

おわりに

医療制度の改革に伴い施設在宅領域では医療需要の増大と利用者の重度化が進んでいる。それに対応するにはより高い看護実践能力が必要である。今回の調査結果をふまえ、看護師職能委員会Ⅱでは次年度、看護管理者の人材育成、マネジメントに関する研修を企画運営していきたい。

最後に今回の調査にあたりご協力いただいた看護管理者の方々に深く感謝いたします。

「施設・在宅領域における看護師の現任教育の現状」

※現任教育とは「免許を持って病院に勤めている看護師・准看護師を対象とした、専門能力向上を目的とした教育研修」をいう。

※クリニカルラダーとは「看護師の看護実践に必要な実践能力を段階的に表現したもの」をいう。

※平成 28 年 7 月 1 日の状況をご記入ください。

I. 所属施設についてお尋ねします。 該当するものに○をつけてください。

1. 高齢者ケア施設（特別養護老人ホーム・老人保健施設）
2. 訪問看護ステーション
1 と答えられた方は設問 3・4 へ、2 と答えられた方は設問 5・6 へお進みください。
3. 設置主体に○をつけてください。
1) 医療法人 2) 福祉法人 3) その他法人
4. 定員数に○をつけてください。
1) 29 人以下 2) 30 人～49 人 3) 50 人～79 人 4) 80 人～99 人 5) 100 人以上
5. 設置主体に○をつけてください。
1) 医療法人 2) その他の法人 3) 会社 4) 個人 5) その他
6. 1 ヶ月間の実利用人数及び訪問回数について（ ）に数字を記入してください。
1) （ ）人
2) （ ）回

II. 看護職（看護師・准看護師）の概要についてお尋ねします。

1. 看護職の人数をお尋ねします。（ ）に数字を記入してください。
常勤看護師（ ）名 常勤准看護師（ ）名
非常勤看護師（ ）名 非常勤准看護師（ ）名
2. 27 年度に採用した看護師の数をお尋ねします。（ ）に数字をお書きください。
常勤看護師（ ）人 そのうち新卒者（ ）人
常勤准看護師（ ）人 そのうち新卒者（ ）人
非常勤看護師（ ）人 そのうち新卒者（ ）人
非常勤准看護師（ ）人 そのうち新卒者（ ）人

III. 看護職(看護師・准看護師)の現任教育についてお尋ねします。

1. 現任教育を企画担当する看護師の責任者はいますか。番号に○をつけてください。
1) いる 2) いない
2. 現任教育を企画担当する組織的な委員会がありますか。番号に○をつけてください。
1) ある 2) ない
3. 教育研修の年間計画を立案していますか。番号に○をつけてください。
1) 立案している 2) 立案していない
4. 27 年度に施設（事業所）内で実施した研修についてお尋ねします。実施した研修すべてに○をつけてください。（複数回答可）
1) 新規採用者対象研修・オリエンテーション等
2) 経年別研修
3) 看護管理者を対象とした研修

- 4) 看護専門知識技術に関する研修
 - 5) 医療安全、感染防止、臨床倫理、接遇等必要性の高い課題の教育研修
 - 6) その他 ()
5. 27年度に活用した施設（事業所）外研修についてお尋ねします。活用した研修すべてに○をつけてください。（複数回答）
- 1) 新規採用者対象研修・オリエンテーション等
 - 2) 経年別研修
 - 3) 看護管理者を対象とした研修
 - 4) 看護専門知識技術に関する研修
 - 5) 医療安全、感染防止、臨床倫理、接遇等必要性の高い課題の教育研修
 - 6) その他 ()
6. 問 5.で活用した施設（事業所）外研修の主催はどこですか。該当するものすべてに○をつけてください。（複数回答）
- 1) 日本看護協会、愛知県看護協会が主催する研修
 - 2) 看護協会以外の職能団体（医師会等）やその他医療福祉系団体の主催する研修
 - 3) 県や市など公的機関が主催する研修
 - 4) 企業・製薬会社等が主催する研修
 - 5) 民間の研修機関等が主催する研修
 - 6) その他 ()
7. 自施設の現任教育で課題だと思うことすべてに○をつけてください。（複数回答）
- 1) 教育研修の企画運営を担う人材がない
 - 2) 講師を担う人材がない
 - 3) 教育研修の予算がない
 - 4) 教育研修に関する幹部の理解が乏しい
 - 5) 教育研修を行う場所がない
 - 6) 教育研修を行う時間がない
 - 7) 教育研修を開催しても参加者が少ない
 - 9) その他 ()

IV クリニカルラダー（看護師の看護実践に必要な実践能力を段階的に表現したもの）についてお尋ねします。

1. 自施設のクリニカルラダーの有無についてお尋ねします。
 - 1) ある
 - 2) ない
2. 問 1.で「1)ある」と回答された方にお尋ねします。該当するもの一つに○をつけてください。
 - (1) クリニカルラダーの運用の実際についてお尋ねします。
 - 1) クリニカルラダーがあり運用している
 - 2) クリニカルラダーがあるが十分運用できていない
 - 3) クリニカルラダーがあるが全く運用していない
 - 4) その他 ()
 - (2) クリニカルラダーの対象者についてお尋ねします。該当するもの一つに○をつけてください。

- 1) 常勤看護師に適応している
 - 2) 常勤看護師と常勤准看護師に適応している
 - 3) 常勤看護師と非常勤看護師に適応している
 - 4) 常勤看護師・准看護師、非常勤看護師・准看護師に適応している
 - 5) その他 ()
3. 問 1.で「2)ない」と回答された方にお尋ねします。該当するもの一つに○をつけてください。
- 1) クリニカルラダーの作成を検討中である
 - 2) クリニカルラダーの必要性は感じているが作成する予定はない
 - 3) クリニカルラダーの必要性がない
 - 4) クリニカルラダーが必要かどうかわからない
 - 5) その他 ()
4. 日本看護協会の「ジェネラリストのための標準クリニカルラダー」(平成 14 年度)をご存知ですか。
- 1) 知っている
 - 2) 知らない
5. 日本看護協会が平成 27 年度「標準化された看護師のクリニカルラダー」の開発を行なっていることをご存知ですか。
- 1) 知っている
 - 2) 知らない
6. 日本看護協会が開発している「標準化された看護師のクリニカルラダー」を自施設で活用したいと思いませんか。該当するもの一つに○をつけてください。
- 1) ぜひ活用したい
 - 2) 何からの形で参考にしたい
 - 3) 自施設のものがあるので活用することは考えていない
 - 4) 特にクリニカルラダーの必要性を感じない
 - 5) その他 ()

V. 現任教育の現状およびクリニカルラダー活用に関する課題について以下にご記入ください。

1. 自施設の看護職の現任教育で工夫されていることをお書きください。

2. 自施設の看護職の現任教育で困っていることをお書きください。

3. 自施設におけるクリニカルラダー運用の課題をお書きください。

ご協力ありがとうございました。